

## 第5章 文化財の把握調査の現状と課題

# 1. 文化財の把握状況

## (1) 既往の把握調査等

本市の文化財の把握に関わる調査については、次にあげる国、県、市（旧市町含む）、大学等が実施した調査成果がある。

表 5-1 国による文化財の調査

書籍名	発行機関など	発行年
天然記念物緊急調査植生図・主要動植物地図 22 静岡県	文化庁	1971
全国遺跡地図 静岡県 史跡・名勝・天然記念物および埋蔵文化財包蔵地地図	文化庁文化財保護部	1978
近代の庭園・公園等に関する調査研究報告書	文化庁文化財部記念物課	2012
採掘・製造、流通・往来及び居住に関連する文化的景観の保護に関する調査研究（報告）	文化庁文化財部記念物課	2010

表 5-2 県による文化財の調査（静岡県文化財調査報告書）

書籍名	発行機関など	発行年
静岡県の古代文化	静岡県教育委員会	1964
東海道新幹線静岡県内工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告	静岡県教育委員会	1965
静岡県民俗資料緊急調査報告書	静岡県教育委員会	1966
静岡県の民家	静岡県教育委員会	1973
静岡県民俗地図	静岡県教育委員会	1978
静岡県の近世社寺建築	静岡県教育委員会	1979
静岡県歴史の道調査報告書 東海道	静岡県教育委員会	1980
静岡県の中世城館跡	静岡県教育委員会	1981
静岡県歴史の道調査報告書 秋葉道	静岡県教育委員会	1983
遠江の横穴群	静岡県教育委員会	1983
静岡県の民謡	静岡県教育委員会	1986
静岡県の諸職	静岡県教育委員会	1989
静岡県の窯業遺跡 地名表・分布地図編	静岡県教育委員会	1989
静岡県の民俗芸能	静岡県教育委員会	1997
静岡県の重要遺跡	静岡県教育委員会	1998
静岡県の祭り・行事	静岡県教育委員会	2000
静岡県の近代化遺産	静岡県教育委員会文化課	2000
静岡県の前方後円墳 総括編・資料編	静岡県教育委員会	2001
静岡県の近代和風建築	静岡県教育委員会	2002
静岡県の古代寺院・官衙遺跡	静岡県教育委員会	2003
静岡県の天然記念物（地質鉱物）	静岡県教育委員会文化課	2004
静岡県の中近世墓 基礎資料編	静岡県教育委員会文化財保護課	2019
静岡県の中近世墓 総括・地域報告編	静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課	2021
静岡県の文化的景観総合調査報告書	静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化財課	2022

表 5-3 行政発行の地域史

書籍名	発行機関など	発行年
掛川市史上巻（古代、中世）	掛川市誌編纂委員会	1997
掛川市史中巻（近世）	掛川市史編纂委員会	1984
掛川市史下巻（近現代）	掛川市史編纂委員会	1992
掛川市史資料編（古代、中世）	掛川市史編纂委員会	2000
掛川市史資料編（近現代）	掛川市史編纂委員会	1995
掛川市史資料集（近世編）	掛川市教育委員会市史編纂委員会	1980
掛川市史資料集（近世編二）	掛川市教育委員会市史編纂委員会	1982
掛川市誌	掛川市史編纂委員会	1968
大東町誌	大東町	1984
大東町誌 第二巻	大東町	1998
大東町誌 第三巻	大東町	2005
ふるさと双書 1 鍬が語る大東町	大東町教育委員会	1995
ふるさと双書 2 天狗のお爪	大東町教育委員会	1995
ふるさと双書 3 民家は語る	大東町教育委員会	1996
ふるさと双書 4 大東町の地名	大東町教育委員会	1997
大須賀町誌	大須賀町誌編纂委員会	1980
はばたく大須賀思い出共有録	大須賀町・町誌編纂委員会	2005
写真でつづるふるさと大須賀	記念誌編集委員会	1986
静岡県史（通史編、資料編、別編）	静岡県	1994 ～2021

## (2) 把握調査の状況

既往の把握調査等の状況から、次のとおり本市における文化財の把握状況を示す。

表 5-4 文化財の把握調査の状況

類型				市内全域	
わたしたちが次の世代へ伝えていきたい身近にあるモノ・コト	文化財 保護法が 対象と している 類型	有形 文化財	建造物	○	
			美術 工芸品	絵画	×
				彫刻	×
				工芸品	×
				書跡・典籍	×
				古文書	×
				考古資料	○
				歴史資料	×
		無形文化財	×		
		民俗 文化財	有形の民俗文化財	△	
	無形の民俗文化財		△		
	記念物	遺跡（史跡）	○		
		名勝地（名勝）	△		
		動物、植物、地質鉱物（天然記念物）	△		
	文化的景観	○			
	伝統的建造物群	△			
		埋蔵文化財	○		
		文化財の保存技術	×		
	その他	伝説・伝承	△		
		方言	△		
地名		△			
香り		△			

- ◎ 把握調査は十分である。
- 分布を確認しているが、追加の把握調査が必要である。
- △ 分布するが把握調査が不十分である。
- × 分布するが把握調査されていない。
- 分布がない。

## 2. 把握調査に関する課題

### (1) 有形文化財

#### ①建造物

県による民家、近世社寺建築、近代和風建築の調査や合併以前の市町で把握調査が行われている。しかし、個人所有の建造物については、近年、消滅の危機にあることから追加の把握調査が必要である。

#### ②絵画、彫刻、工芸品

これまで、この分野において把握調査は行われていない。各地区や団体、個人での調査で把握されているものもあるが、その全容は明らかではない。市全域の把握調査が必要である。また、関係課所管の絵画、工芸品についても文化財の価値が把握できていないことから、市所蔵のものについても、把握調査は必要である。

#### ③書跡・典籍、古文書、歴史資料

これまで、この分野において把握調査は行われていない。県史や掛川市史をまとめる際に、一部について詳細に調査している。各地区や民間団体の出版物に掲載されているものもある。一方、寄贈の申し出や所蔵者からの調査依頼によって、内容を把握できた事例もある。近年、各家での代替わりにより散逸する恐れもあることから、把握調査が必要である。

#### ④考古資料

考古資料に関しては、ほとんどが埋蔵文化財の発掘調査により出土している遺物であり、報告書等で明らかにされている。しかし、未整理の資料もあることから、追加の把握調査が必要である。

### (2) 無形文化財

これまで、この分野において把握調査は行われていない。市全域の把握調査が必要である。

### (3) 民俗文化財

#### ①有形の民俗文化財

民具について、合併前の旧掛川市と旧大東町では収集を行い、旧大須賀町では大須賀歴史民俗資料館で収集や展示を行ってきたが、市全域での把握調査は十分ではない。本市はしずおか遺産「秋葉信仰と街道」を構成する市町の一つとして認定を受けているが、秋葉常夜燈の把握調査は不十分である。また、近年の開発により馬頭観音などの石造物が移設される状況にあるため、把握調査が必要である。宝篋印塔<sup>ほうきょういんとう</sup>、一石五輪塔<sup>いっせきごりんとう</sup>などの把握調査も必要である。

#### ②無形の民俗文化財

これまで県や合併以前の市町で調査しているが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、消滅または継承できなくなっている様子が見られる。そのため、食文化などの生活文化も含め、現段階での把握調査が必要である。

## (4) 記念物

### ①遺跡（史跡）

市全域に数多くの遺跡が分布しており、これらは既に把握されているが、試掘調査等により、その範囲や内容について追加の把握調査が必要である。また、戦争遺跡をはじめとし、近代以降の遺跡の把握調査が必要である。

### ②名勝地（名勝）

昭和 40 年代に国、県により調査されているが、年月が経過していることから、把握調査が必要である。

### ③動物、植物、地質鉱物（天然記念物）

国、県により調査されているが、調査から年月が経過していることから、動物、植物については、把握調査が必要である。地質鉱物については、研究者による調査が行われており、把握調査は十分であるといえる。

## (5) 文化的景観

近年、県によって調査されたが、市域全体については、追加の把握調査が必要である。

## (6) 伝統的建造物群

市域全体の調査は実施されていないことから、把握調査が必要である。

## (7) 埋蔵文化財

市域の埋蔵文化財包蔵地分布図があり、現在 713 か所を周知している。全域を把握できているが、包蔵地の範囲についての見直しが必要であり、追加の把握調査が必要である。

## (8) 文化財の保存技術

市域全体の調査は実施されていないことから、市内全域の把握調査が必要である。

## (9) その他（わたしたちが次の世代へ伝えていきたい身近にあるモノ・コト）

今回の各地区へ文化財を確認することで、伝説・伝承、方言、地名、香りの分野が確認できたが、把握調査というものではないことから、市内全域の把握調査が必要である。